



八幡野おさかなクラブ

八幡野港の朝市

八幡野港での朝市が始まって3年目、朝市が多くの人に知られるようになり、開催を知らせるLINEで開設した「八幡野おさかなクラブ」への登録者も50人を超える状況になっています。（記載のQRコードから登録できます）

八幡野港の朝市は、伊勢えび漁の刺し網に掛かる魚の大半が捨てられていると聞いたことから始まりました。高級魚もかかりますが、伊勢えび以外は外道扱い、せっかく獲った新鮮で美味しい魚を捨ててしまうのはもったいない、伊豆高原に住む人たちに八幡野で獲れた魚を食べてもらいたい、と漁業者と話し合っ一昨年の10月にスタート。

伊勢えび漁は刺し網を漁のたびに海に入れますが、海の状態や天候、海水温、活動期などで網入れが制限される実施頻度の低い漁、網入れはその日にならないとわからないため、朝市開催も不定期で

「八幡野おさかなクラブ」で朝市開催をお知らせするのは開催日前日の夕方になってしまいます。どれだけの人が朝市に集まってくれるか、いつもはらはらしながら朝市の日を迎えています。

朝市は午前6時スタートです。なじみのヒメジ、ブダイ、タカノハダイや高級魚のイシガキダイやカサゴ、真鯛、スズキ、コチ、アカハタもあって、サザエも売っています。朝市にあわせて漁師さんがサバやムツを釣ってきてくれることもあります。いずれの魚もリーズナブルなお値段で提供しています。

八幡野の朝市は伊勢えび漁の副産物、残念なことに伊勢えびの漁期に合わせて開催するので、5月半ばから9月半ばまでの禁漁期には開催できません。それでも新鮮でおいしい魚を安くゲットできる貴重な機会、地元産の魚をぜひ味わっていただきたいですね。



おさかなクラブ
www.sizcom.jp

朝ヒメジ(おじさん)



イシガキダイ



編集後記

本誌の制作を通じて、地域で活動する方々の静かな情熱と実直な行動力に、深い感動を覚えました。また、限られた期間にもかかわらず、多くの皆さまが力を貸してくださったことに、心より感謝申し上げます。この冊子が、地域の取り組みへの理解を深め、新たな連携や行動のきっかけとなることを心より願っています。

こんな活動も！

まち協通信7月号(創刊号)

やんも

—ごあいさつ—

伊豆高原エリアまちづくり協議会
会長 花房義明

日頃より、地域の皆さまの温かいご支援とご協力に心より感謝申し上げます。このたび、伊豆高原エリアまちづくり協議会の広報紙『やんも』を創刊する運びとなりました。

「まち協」は、2022年10月に発足し、地域が抱える課題を共有しながら、いつまでも住み続けたい伊豆高原を目指して活動してまいりました。行政区、自治会、住民団体、地元企業、八幡野漁師会など、多様な立場の声を束ね、地域の力を結集しています。

伊豆高原は、自然の恵みを愛する多くの人々に支えられた、かけがえのない地域です。この地の魅力を次の世代へつなぎ、「住み続けたい」「また訪れたい」と思えるまちを築いていくことが、私たちの願いです。

私たちは、まちづくりにおいては市民の声を集め、これを市の政策に反映させ、官民一体のまちづくりを進めることが重要だと考えています。私たちは行政と市民を結ぶ確かな架け橋として、具体的な提案を目指します。

皆さん、誰もが誇りと愛着をもって暮らせる伊豆高原をみんなで実現しましょう。



花房義明



未来を拓く挑戦

伊東市、伊豆高原がいつまでも住み続けたいまちであり続けるためには、豊かな自然環境の保全と利便性の高い生活環境が欠かせません。まちづくりを進めるためには産業振興を図り、税収を上げ、民間投資の呼び込みが必要です。当協議会は総合計画を立案する組織ではありませんが、次の6つのプロジェクトは行政と協働して推進すべき具体的な挑戦であると考えます。

<https://machikyo.net/>



いつまでも緑豊かな伊豆高原の自然を維持

空き家・空地の活用

良好な生活環境が広がり快適に暮らせるまちづくりのための環境保全リーフレットを作成、行政区や自治会を通じて配布しています。リーフレットや地域での環境保全勉強会を通じ、地域住民や観光客の意識を高め、自然環境保全意識の浸透を図っています。また、自然環境や生活環境を阻害している空き家や空き地について、不動産所有者からの寄付の受け皿となる寄付バンクを官民協力のもとに設置し、空き家・空き地を小規模集会所や小公園、家庭菜園やガーデニングなど地域に役立つ利活用を通じて地域振興を図っていきます。



世界基準のコンサートホール建設による伊豆半島の地域振興

国際観光温泉文化都市として

世界水準のコンサートホールを伊豆高原に建設する伊豆高原のリゾートとしての特性を活かし、NHK交響楽団や東京都交響楽団、またベルリンフィルやウィーンフィルなどの内外の一流オーケストラを招聘できるコンサートホールを建設することで、首都圏や全国から集客し、伊東・伊豆の観光振興と経済の活性化を目指します。コンサートホールができれば、伊豆高原のブランド価値が上がり、移住者が相当数増えることが期待できます。また、伊東が文字通り「国際観光温泉文化都市」となり、観光地としてだけでなく、文化都市としても評価されることで、若い人たちが集まり、新たな文化や産業が生まれる可能性が生じます。



地域医療・福祉を社会的なシステムとして拡充

医療・福祉体制の整備と充実



住み続けたいまちづくりにとって、その地域の医療・福祉が充実しているか、どのような医療・福祉の社会的仕組みや医療・福祉サービスが提供されているのかが重要です。「多様性の調和と互いに理解し、助け合って生きる共生社会の実現」を目指す対島地域ふるさと協議会と連動し、安心して暮らせる住民主体のまちづくりを進めていきます。具体的な活動として、百歳志塾や認知症カフェ等の居場所の運営、認知症ケア研究会や地域サミット、医療と福祉の連携会があります。

交通利便性の向上を図る公共交通網の整備

交通インフラの構築

住み続けたいまちの公共交通網の在り方は、伊東市が目指す交通空白地域の解消だけではなく、日常生活における交通利便性を向上させていくことが必要です。また観光振興においても観光インフラとなる公共交通網の整備は必須の課題です。3年前から日常生活上の交通利便性の向上のために、伊豆高原地域で、ディマンドタクシーによる実証実験を開始しています。また、高齢者が家から外に出て様々な活動ができる交通インフラを構築し、移動支援による高齢者の介護予防の実現を図ります。



伊東高校城ヶ崎分校の跡地利用

文化と観光を結ぶ拠点／暮らしをつなぐ公共交通のハブとして

公共施設の利用は、地域振興につながる事が前提です。城ヶ崎分校の跡地は、伊東市南部地域に残された唯一ともいえる平坦で広大な土地であり、国道や県道に隣接する利便性の高い土地です。この利点を生かし、アートの伊豆高原にふさわしい美術、工芸、芸術の生産・展示・販売拠点として、また芸術家・美術工芸家と地域の人や観光客と触れ合う場として活用していきます。さらに城ヶ崎分校美術部のブランドを生かし、商業アートやアニメ産業の新たな企業立地を図ります。さらに、地域公共交通網のハブセンターとして、日常生活や観光の交通利便性の確保を図ります。



伊豆高原に図書館分館を

身近に図書館のある日常

南部地域の生活拠点である伊豆高原に公共図書館の分館開設を求める運動を展開しています。伊豆高原を中心とした南部地域は市人口の1/4を占めるものの中央図書館の位置する市中央からは車利用で30分の距離にあり、身近に利用できる環境にはありません。新図書館建設の中止を決めた新市長は誰にも利用しやすい広域的な図書館サービスの検討を約束しており、これは「身近に利用できる図書館」を主張してきた我々の運動の大きな成果と考えています。当分科会はこの運動を継続するとともに、過度な費用をかけずに開設・運営できる分館システムの検討を進め、早期の分館開設と文化の香り高い伊豆高原ライフの充実を目指します。

